都立 第五福竜丸展示館ニュース

福竜丸だより

2005.05.01
No.319

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会　連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail：fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

広島平和記念資料館で開催中の「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」展より

被爆60周年・資料館開館50周年を迎え
「ヒロシマの心」を世界に発信

広島平和記念資料館館長　畑口　實

広島平和記念資料館の設置と意義

今年、ヒロシマは被爆60周年を迎える。振り返れば、広島平和記念資料館は、広島が原子爆弾により壊滅的な被害を受けて一〇年が経過した一九五五年八月二四日に開館した。

原爆による被害の実相を後世に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するために建てられた。

開館当初、入館者数は年間二〇万人程度であったが、七〇年代には年間一〇〇万人を超えた。しかし一九九一年に一五九万三千人をピークに、減少に転じている。

現在の資料館は、一九九四年六月に新築された東館を加え、二つの建物からなっている。東館は被爆前後の広島の歴史や広島に原爆が投下された理由・経緯などを、従来からある西館は被爆者の遺品や被災写真などを展示し、一九四五年八月六日、ヒロシマで起こった事実を紹介している。

当館ではこれらの常設展示を補完するため、企画展を開催しているほか、被爆者による体験証言を聞く被爆証言講話、ボランティアによる展示解説、インターネットによる原爆・平和・核問題に関する情報発信にも力を入れている。

さらに、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた世論を醸成するため、国内外の都市で原爆展を開催している。

当館の課題とその対応

被爆から六〇年が経過する今日、戦争体験のない世代が人口の半数以上を占める。被爆者は高齢化し、平均年齢は七二歳を超えた。近い将来、被爆者の体験を直接聞く機会

（2めんにつづく）

（1面からつづく）

は失われることになるだろう。被爆体験の継承は緊急かつ重大な課題である。被爆証言に代わる新たな取り組みの模索とともに、当館の役割はこれまで以上に重大である。

　このように、当館の役割がクローズアップされる中で、資料館は将来に向けて、解決すべき課題をいくつか抱えている。

　一つは、建物の老朽化である。三月、逝去された建築家・丹下健三氏の設計による西館は築後五〇年を迎える。半世紀にわたり、被爆の実相を伝え、広島の復興と発展を見守ってきた西館は、原爆ドームと共に、人々の脳裏に定着した風景になっている。どのような整備を施すのか早急に検討しなければならない。

企画展会場での畑口館長

　二つ目には、展示についての課題である。過去に資料館を訪れた人から、以前の展示と比べて、悲惨さや怖さが伝わらないという声を聞く。その一方で、展示を見終わった児童・生徒の心理的な負担を懸念する声もある。展示手法のあり方を検討しなければならない。また、来館者の見学時間に対応して、多くの展示資料の中から、被爆の実相展示を十分に時間をとって見学できる展示構成や順路等の検討も課題である。

　現在、当館では、これらの課題を中・長期的な視点に立ち解決していくため、「平和記念資料館更新計画」を策定している。専門の立場からの意見を基に、今年度の策定を目指している。

被爆六〇周年の取り組み

　広島市では、昨年八月六日から今年八月九日までの期間、「核兵器のない世界を創るための記憶と行動の一年」と位置付けて、記念事業を展開している。

　当館では、資料館の五〇年の歩みと市民が取り組んできた平和活動を紹介する企画展「平和記念資料館五〇年のあゆみ（仮称）」を七月から開催する。

　また、被爆六〇周年を最後の機会ととらえ、長崎原爆資料館、広島・長崎の国立原爆死没者追悼平和祈念館との共催により、昨年度から三カ年計画で「被爆資料・遺影・被爆体験記の全国募集」を実施している。

　さらに、資料館所蔵の「市民が描いた原爆の絵」を中心とした図録を制作し、平成一八年度には発行する予定である。

第五福竜丸平和協会の協力で企画展を開催中

　第五福竜丸と当館の関わりは、事件の約一ヵ月後の三月二五日、後に初代館長に就任する長岡省吾氏が、静岡県焼津に向かい、放射線測定器「ガイガーカウンター」で第五福竜丸を測定したことに始まる。

　一昨年から、（財）第五福竜丸平和協会では、「第五福竜丸を知らない世代に伝えたい」を標ぼうして、被災五〇周年記念事業を展開されている。

　そのような中、当館では平和協会のご協力を賜り、二月一五日から六月三〇日まで、企画展「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」を開催することができた。

　被災事件は米ソの核開発競争が激しさを増す中で、原水爆禁止を求める運動を日本全国に展開させるきっかけとなり、昭和三〇年、広島で第一回原水爆禁止世界大会を開催する契機となった。

　企画展「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」の開催は、第五福竜丸の被災を通して、改めてヒロシマ・ナガサキを考え、核兵器廃絶と世界恒久平和について考えるきっかけになるものと期待している。

終わりに

　被爆六〇周年、平和記念資料館開館五〇周年にあたる今、当館はこれまで以上に重要な役割を求められている。二一世紀が核兵器のない平和な世界になるように、私は「ヒロシマの心」を世界に発信し続けていく所存である。

ビキニ水爆実験被災50周年記念出版

図録＝写真でたどる第五福竜丸

編集・発行＝財団法人第五福竜丸平和協会　発売＝平和のアトリエ

内容＝刊行にあたって、都挨拶、グラビア・第五福竜丸、水爆実験との遭遇、乗組員のその後と久保山さんの死、「原子マグロ」と国民生活、ビキニの海へ―俊鶻丸の海洋放射能調査、漁船第五福竜丸、原水爆反対の声おこる、乗組員へのお見舞いの手紙、漁業補償と事件の「決着」、マーシャル諸島の核被害、第五福竜丸の保存と展示館の建設ほか。

解説＝水爆実験と日本の科学者、第五福竜丸の現在―日本経済への影響、マーシャル諸島の核被害者ほか

展示館特別価格 2000 円（送料ふくむ）　A 4 版、104 ページ

広島での企画展の感想・反響より

広島平和記念資料館で開催されている「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」展が話題をよんでいます。開催直後より地元マスコミにも取り上げられました。この企画展に寄せられた感想文を紹介します。

見学者の感想より

＊このような核兵器の危険な状況・実態をおおいに展示・アピールしてください。（広島市　六〇代）

＊内容が豊富で大変素晴らしい展示でした。（広島市　七〇代　被爆者）

＊核実験による放射能の広範な広がりを初めて知った。（広島県内　六〇代）

＊よい企画をしていただきました。忘却の彼方に消し去ってはならない久保山さんの死です。（広島県内　四〇代）

＊昨日夢の島で第五福竜丸を見て来ましたが、広島での展示内容は東京と同等以上だと思います。（広島市内　三〇代）

＊世界中の人が見て知るべきだと思います。世界平和を祈ります（大阪　二〇代）

＊リアルで気持ちが苦しいけど、現在の人たちが忘れかけていることを思い出させてくれる。つらいけど知るべきだし、それを伝えて生活を見直すきっかけになるといいなと思います。（愛媛　二〇代）

＊マーシャル諸島の被害が重大であることを知った。（京都　二〇代）

＊たいへん力強い展示ですが、ここを訪れた人にしか伝わりません。学校やアートギャラリーなど、またホワイトハウスやペンタゴンなど世界中に巡廻することはできないのでしょうか。（イギリス　五〇代）

＊ヒロシマだけじゃなく他の国でも核を使用していることは痛たまれない。一人一人が核について考えるべき。戦争を起こしたのが我々人間の手ならば戦争をなくすことも人間の手でできるはず。（広島市　一〇代）

＊核兵器は作ってはいけないし、持ってはいけない。どこの国も核兵器や銃やすべての武器を捨てるべき。やっぱり平和は一番だと思いました。（広島市　一〇代）

＊自分が知らないことが多くて情けなくなった。世界にこういったことを訴え続けるべきだと思ったし、今の情勢を思うと何をやってるのだろうと人間の愚かさを痛感した。（大阪　二〇代）

＊戦争が終わってから起こった惨事。核実験によってヒバクシャにさせられてしまった人々がたくさんいるということ、核兵器は絶対廃絶しなければならないことを伝え続けてほしい。（東京　三〇代）

◇中国新聞コラム「天風録」より（抜粋）

「赤地に白く『大漁』と大書した旗が華やかだけに悲しい。ビキニ環礁の米時の水爆実験で被災した第五福竜丸をテーマに、広島市の原爆資料館東館で引かれている企画展。大漁どころか水揚げした「原爆マグロ」は廃棄された。（中略）船名を直訳すれば『ラッキー・ドラゴン』となる。米国の代表的な美術家の一人ベン・シャーンは福竜丸事件をテーマにした一連の作品をこう名付けた。込めた皮肉は、乗組員の災難だけではなく世界にも向けられていたのではないか。北朝鮮が核兵器保有を公式に宣言したのはつい先日である。国際社会はラッキーとは逆の方向に進んでいる。事件は原水爆禁止運動が全国に広がるきっかけともなった。第五福竜丸展示館の入場者数は四百万人を超えた。平和学習の小、中学生が多い。福竜丸の『航海』は続く。」（二月二〇日朝刊）

大石さん広島で記念講演

広島平和記念資料館は、「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」企画展開催の記念行事として、第五福竜丸元乗組員の大石又七さんを招いて記念講演会を開きました。

大石さんは、ビキニ事件が発生から半世紀を経て忘れ去られようとしている。が、元乗組員は肝臓障害を患い、事件はいまも終わっていない、と述べました。さらに事件を収束させるための日米の政治決着の模様やその後の苦しい半生について語りました。

大石さんは、核の被害者という点では、広島の被爆者と同じだ、と強調しました。

INFORMATION

お花見平和のつどい開く

第五福竜丸から平和を発信する連絡会によるお花見平和のつどいが、4月3日に開かれました。つどいは、今年で5回目、この日は桜の開花が遅れまだ蕾でしたが曇り空ながら暖かく、桜の木とエンジンの間に80名余が参加しました。

つどいは「あの日から60年—つないでつないで東京から平和を」のよびかけで催され、東京地婦連の田中里子さんは、「今年は桜の花もまだ引っ込んでいますが、去年は散ってしまい、一昨年は嵐、平和運動も嵐もあれば風の日もあるけれどこれを乗り越えていきましょう。福竜丸から百年後も子、孫の時代まで続けましょう」と開会のあいさつ。

主婦連、被爆者団体、生協連、原水協など連絡会構成の8団体が報告。平和協会からは藤田秀雄副会長が、「60年間核兵器を地球上のどこでも使わせなかったことは大きな成果だ。他方、なくすこともできなかった。私の住む横須賀にも核搭載できる原潜が来るが、核兵器をなくす、という方向をみんなの力を合わせて作っていきたい」と述べました。

つどいは、昼食休憩と若手ミュージシャンの演奏につづいて、リレートークとして原爆裁判の報告、平和憲法についての海部幸造弁護士記念講演、戦争体験を受け継ぐ取り組みの報告などが館内でおこなわれました。

その後、エンジンを囲むように5つのグループに分かれて「みんなで語ろう」のコーナーで参加者全員が発言、3時過ぎに終了しました。

岡本敏子さん逝く

岡本太郎記念館館長の岡本敏子さんが、4月20日に心不全で急逝されました。

敏子さんは、平和協会のビキニ水爆被災50周年記念事業に賛同され、第五福竜丸だより特別号(03年8月)のインタビューでは、「50年に第五福竜丸をよみがえらせる」と語り、04年4月には特別展の「岡本太郎『明日の神話』の福竜丸展」に原画を提供くださり、福竜丸の甲板上に展示されました。

敏子さんは、50周年記念事業のオープニング式典や現代アート展のオープニングにも出席。「明日の神話」展での記念スピーチでは、「太郎は『死の灰』にほんとに怒っていた、それが『燃える人』を描かせた。『明日の神話』の原爆は凶悪なエネルギーだけれど、人間はもっと大きな力で原爆に立ち向かう、その瞬間に明日の神話が生まれる」。「福竜丸のことをどんどん伝えていかなければ」と語られました。平和協会へのご協力に感謝し、心からご冥福をお祈りします。

平和協会 理事会、評議員会開く

第五福竜丸平和協会は、2004年度末が近づいた3月12日に評議員会を開き、3月26日に理事会を開きました。

今回の評議員会と理事会は、2005年度の事業計画案および予算案について審議、承認しました。

05年度事業計画では、50周年記念プロジェクトの最終年度として、広がったネットワークをいかして協会の経常的諸事業の改善・充実に努めながら、巡回展の継続、『第五福竜丸事件50周年記念事業報告書』の刊行、2006年展示館開館30周年に向けての準備を開始することを決めました。

また、一定の予算を計上し協会・展示館収蔵資料等の整理、閲覧スペースの整備を行うことや協会への協力をひろげる学識経験者、研究者、学芸員等の方々を専門委員に依嘱することにしました。

新たに、坂野直子氏（前評議員）を理事に、桂川秀嗣（東邦大学教授・物理学）、岸田正博（僧侶・多聞寺住職）、山本義彦（静岡大学教授・経済学）の3氏を評議員に選任しました。

＊

今年度の講演会・企画展の日程（詳細は次号）

＊ ラッセル・アインシュタイン宣言50年記念講演会　7月9日（土） 午後。講演・小沼通二氏（慶応大学名誉教授）ほか

＊ 特別展　黒田征太郎ピカドン展　7月16日（土）から8月14日（日）

＊ 特別展「乗組員へのお見舞いの手紙」 9月23日（金）～12月4日（予定）